

KJFC 例会 2014 年 2 月 22 日

『聴いてくれ！ オレのハードバップ Vol.1』

紅 我蘭堂

日頃、K J F C ハードバップ強硬派を自認している私です。実は意外なことにハードバップ・ジャズにおいて質量ともにナンバーワンであるブルーノート・レーベルについては奥手でした。それこそ本格的にこのレーベルを聴き始めたのは、1979 年から KJFC に参加させていただいてからでした。あの名物 MC ピー・ウイ・マーケットの「サンキヤア〜」を連発していた 3 代目会長トミヤんこと富田正敏さんの影響も強かったです。当時の K J F C は、今日と違ってブルーノートのレコードがよく掛かっていた記憶があります。その中で先輩諸姉諸兄の皆さんから聴かせていただいてハンク・モブレイを知り、デクスター・ゴードンに胸躍らせ、リー・モーガンにしばれまくりました。

また 1980 年代になってからキングレコードや東芝 EMI から良質の国内盤が番号順に続々と発売されたことも大きかったです。

いつかブルーノート・レーベルの特集をしてみたいと考えています。でも今日はあえてブルーノート以外のレーベルを掛けます。

今から約 43 年前。70 年安保の余韻がくすぶっていた当時、高校 3 年生の私は同級生に誘われて、土曜日の午後にお茶の水の「ナル」「ニューポート」「コンボ」「響」「スマイル」をハシゴしていました。そこからジャズ遍歴が始まりました。それからぼちぼち聴き始めたのは主に「PRESTIGE」でした。

これは、1973 年頃だったと思いますが、当時のビクター音楽産業が LP1 枚 1,100 円という廉価盤 20 枚を一挙に発売したことが影響しています。学生だった当時、肉体系のきついアルバイトをして日給が 2,800 円。ラーメン一杯とジャズ喫茶のコーヒー一杯が確か 300 円、国内盤新譜レコードが 1,800 円から 2,000 円だったと記憶しています。

高嶺の花のレコードが沢山買えると思い、嬉しくて 20 枚のシリーズをこつこつと買い求めました。やがて他のレコード会社も追随して 1,100 円や 1,300 円の廉価盤を発売し始めたはずです。この当時のブルーノートのいわゆる“直輸入盤”より価格が安いということも、私がブルーノート奥手の要因でした。

とにかく、今日はほんのさわりですが、私の時間にお付き合いください。

〈PRESTIGE 編〉



『McLEAN'S SCENE』(PRESTIGE 〈NEW JAZZ 8212〉)
／JACKIE McLEAN

JACKIE McLEAN(as), BILL HARDMAN(tp), MAL WALDRON(p), RED GARLAND(p), PAUL CHAMBERS(b), ARTHUR PHIPPS(b), ARTHUR TAYLOR(ds)

〔SIDE 1〕 1) **GONE WITH THE WIND** 2)OUR LOVE IS
HERE TO STAY 3)MEAN TO ME

〔SIDE 2〕 1)McLEAN'S SCENE 2)**OLD FORKS** 3)OUTBURST



『THELONIOUS MONK』(PRESTIGE LP7027) /
THELONIOUS MONK

THELONIOUS MONK(p), GARRY MAPP(b),PERCY HEATH(b),

ART BLAKEY(ds),MAX ROACH(ds) 1952年10月15日,12月18日、1954年9月22日

〔SIDE 1〕 1)LITTLE ROOTIE 2)SWEET AND LOVELY
3)BYE-YA 4)MONK'S DREAM 5)TRINKLE TINKLE 6)**THESE FOOLISH THINGS**

〔SIDE 2〕 1)**BLUE MONK** 2)JUST A GIGOLO

3)BEMESHA SWING 4)REFLECTIONS



『NEW YORK SCENE』(PRESTIGE 〈NEW JAZZ 8207〉)
／GEORGE WALLINGTON

GEORGE WALLINGTON (p) PHIL WOODS(as), DONALD BYRD(tp), TEDDY KOTICK(b), NICK STABULAS(ds)

〔SIDE 1〕 1)IN SALAH 2)UP TOHICKON CREEK
3)GRADUATION DAY

〔SIDE 2〕 1)**INDIAN SUMMER** 2) '**DIS MORNIN'**
3)SOL'S OLLIE

この3枚は、PRESTIGEの廉価盤シリーズです。あと10枚ほど買ったでしょうか。繰り返し繰り返し聴き込みました。CDを聴き流して棚で埃まみれにしている情けない現在の自分に較べて、当時の自分がたまたま愛おしいです。

マクリーンのこのレコードでは、まだレッド・ガーランドを意識していません。

大きな声で言えないのですが、何を隠そう、私は密かにセロニアス・モンクのファンです。ニューヨークシーンは、オリジナル盤を買いたいぐらい好きです。



『WHEN FARMER MET GRyce』(PRESTIGE 7085) /
ART FARMER

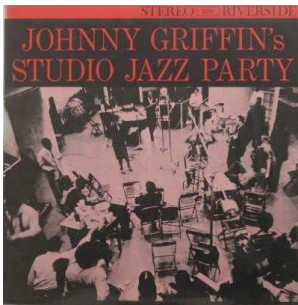
ART FARMER(tp), GIGI GRyce(as), HORACE SILVER(p),
FREDDIE REDD(p), PERCY HEATH(b), ADDISON
FARMER(b), KENNY CLARKE(ds), ARTHUR TAYLOR(ds)

〔SIDE 1〕 1)A NIGHT AT TONY'S 2)BLUE CONCEPT
3)STUPENDOUS LEE 4)DELTITNU

〔SIDE 2〕 1)SOCIAL CALL 2)CAPRI 3)BLUE LIGHTS 4)THE INFANT'S SONG

相手をやりこめるバトル物より、仲のいいデュエット的なグループ演奏が好きになりました。こういう柔らかくて優しいハードバップが好きです。

〈RIVERSIDE 編〉



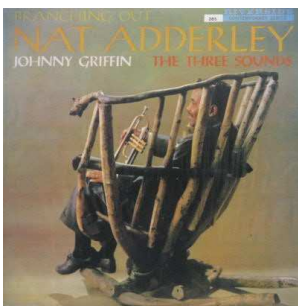
『STUDIO JAZZ PARTY』(RIVERSIDE RLP9338) /
JOHNNY GRIFFIN

JOHNNY GRIFFIN(ts), DAVE BURNS(tp), NORMAN
SIMMONS(p), VIC SPROLES(b), BEN RILEY(ds) 1960年9
月27日

〔SIDE 1〕 1)PARTY TIME 2)GOOD BAIT 3)THERE WILL
NEVER BE ANOTHER YOU

〔SIDE 2〕 1)TOE—TAPPIN' 2)YOU'VE CHANGED 3)LOW GRAVY

ジョニー・グリフィン、どのレコードをどこで聴いたかは忘れてしまいましたが、とにかく元気な演奏なので好きになりました。このレコードでデイブ・バーンズというトランペッターを知り、またノーマン・シモンズというピアニストも知りました。



『BRANCHING OUT』(RIVERSIDE) / NAT ADDERLEY

NAT ADDERLEY(tp), JOHNNY GRIFFIN(ts), GENE
HARRIS(p), ANDY SIMPKINS(b), BILL DOWDY(ds) 1958
年9月

〔SIDE 1〕 1)SISTER CAROLINE 2)WELL, YOU NEEDN'T
3)DON'T GET AROUND MUCH ANY MORE

〔SIDE 2〕 1)I'VE GOT PLENTY OF NOTHIN' 2)BRANCHING
OUT 3)I NEVER KNEW 4)WARM BLUE STREAM

ナット・アダレイは兄キャノンボール・アダレイの七光りで食ってきた訳でないです。正直に白状すると、このレコードも大好きなジョニー・グリフィンとスリー・サウンズの共演ということで買った1枚です。この面子なら誰がリーダーでもはずれはないと踏んだのです。ナット、ごめんなさい。

〈その他レーベル編〉



『CLIFORD BROWN & MAX ROACH』(EmArcy)

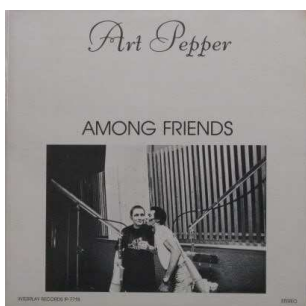
CLIFORD BROWN(tp),MAX ROACH(ds),
HAROLD LAND(ts),GEORGE MORROW(b),
RICHIE POWELL(p)

〔SIDE 1〕 1)DELILAH 2)PARISIAN THOROUHFARE
3)THE BLUES WORK

〔SIDE 2〕 1)DAAHOUD 2)JOY SPRING 3)JORDU

4)WHAT AM I HERE FOR

1970年代前半は、ちょっとしたジャズブームだった気がします。このレコードなどもジャズ専門誌でもない男性ファッション誌で岩浪洋三氏に紹介されて知りました。当時流行していたアイビーファッションとジャズが妙に融合していました。ジャズメンがTシャツGパンでステージに上がらなかった、最後の良き時代です。



『AMONG FRIENDS』(INTERPLAY)/ART PEPPER

ART PEPPER(as), RUSS FREEMAN(p),
BOB MAGNUSSON(b),FRANK BUTLER(ds)

1978年9月2日

〔SIDE 1〕 1)AMONG FRIENDS 2)'ROUND ABOUT
MIDNIGHT 3)I'M GETTING SENTIMENTAL OVER YOU

4)BLUE BOSSA

〔SIDE 2〕 1)WHAT IS THIS THING CALLED LOVE 2)WHAT'S NEW 3)BESAME
MUCHO 4)I'LL REMEMBER APRIL

ペッパーは、勿論コンテンポラリー盤から入りました。やはりワーナー・パイオニア社ですか、1,500円で発売されていたと思います。でもこのレコードはリアルタイムで聴いたのが愛着があります。こんなに“エロい”ベサメ・ムーチョは初めてでした。この年のペッパー初来日コンサートに行けなかったことは痛恨の出来事です。もっとも痛恨だらけですが。



『LOVE FOR SALE』(PROGRESSIVE RECORDS 7002)

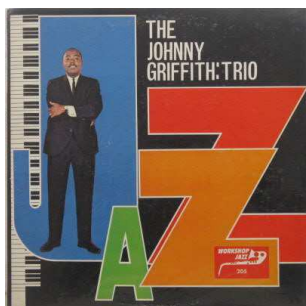
DEREK SMITH(p),GEORGE DUVIVIER(b),BOBBY
ROSENGARDEN(ds)

〔SIDE 1〕 1)LOVE FOR SALE 2)AUTUMN LEAVES
3)SUMMERTIME 4)ONE TO WARM UP ON

〔SIDE 2〕 1)A DAY IN THE LIFE OF A FOOL 2)SWEET
LORRAINE

3)TOO CLOSE FOR COMFORT 4)TRISTESSA

このレコードは 1979 年に KJFC に参加させていただいた頃に、確かゴローさんが持参されたレコードだったと記憶しています。ノリノリコテコテな演奏にしばれて、あんぐりを口をあけてしまったことを、聴くたびに思い出します。こんなジャズもあるんだと「天動説」と「地動説」的な驚きでした。今でも『元気』が欲しい時に引っ張り出します。

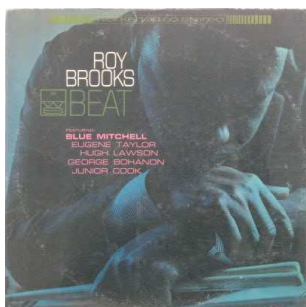


『JOHNNY GRIFFITH TRIO』(WORKSHOP JAZZ 205)
JOHNNY GRIFFITH(p), VANCE MATLOCK(b), BEN
APPLING(ds)

[SIDE 1] 1)ILL WIND 2)UNKNOWN MINOR 3)I' MI SEE
YOU LATER 4)I DID

[SIDE 2] 1)MOMENT' S NOTICE 2)THEY DIDN' T
BELIEVE ME

3)WILLOW WEEP FOR ME 4)SUMMERTIME



『BEAT』(JAZZ WORKSHOP)/ROY BROOKS
ROY BROOKS(ds), JUNIOR COOK(ts) BLUR
MITCHELL(tp), EUGENE TAYLOR(b), HUGH LAWSON(p),
GEORGE BOHANON(tb) 1963 年

[SIDE 1] 1)HOMESTRETCH 2)IF YOU COULD SEE ME NOW
3)PASSIN' THE BUCK

[SIDE 2] 1)SOULIN' 2) SOULSPHERE
3)MY SECRET PASSION'

世はバブル絶頂期の 80 年代最終期。調子に乗ってこんなレコードも買っていました。JAZZ WORKSHOP はデトロイトのレコード会社で、リズム&ブルースで有名な MOTOWN レーベルの系列らしいです。

掛けておいて何ですが、はっきり言ってこの 2 枚は『B 級』です。日頃「ジャズはジャズの上にジャズを作らず、ジャズの下にジャズを作らず」と言っている私がいうのだから本当です。またまた KJFC 某氏に「我蘭堂ちゃんの B 級好み」と、いつもの突っ込みを言われそうですが、たまにはいいものです。

ジョニー・グリフィスはジョニー・グリフィン(ts)と一字違い。という訳ではないですが結構バタ臭い演奏です。

ロイ・ブルックスは、勿論ホレス・シルバー(p)グループのドラマー。このレコードもピアノがヒュー・ローソンに替わっただけのシルバー・セクステットの演奏です。

〈COLUMBIA、EPIC 編〉



『2 FEET IN THE GUTTER』(EPIC BA-17021)／DAVE BAILEY

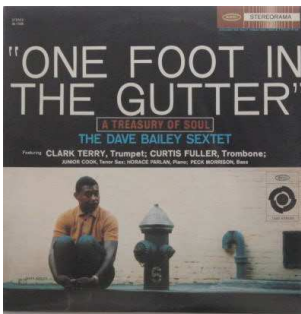
DAVE BAILEY(ds), BILL HARDMAN(tp).

FANK HAYNES(ts), BILLY GARDNER(p), BEN TUCKER(b)

〔SIDE 1〕 1)COMIN' HOME BABY 2) 2 FEET IN THE GUTTER
3)SHINY STOCKINGS

〔SIDE 2〕 1)LADY IRIS B 2)COFFEE WALK

デイブ・ベイリーという人は不思議なドラマーで、ドラム・ソロの演奏を聴いたことがないです。通常自分のリーダー・アルバムではブレイキーさんもジョーンズさんもウィリアムスさんも、ドコドコズンドスンバシンバシバシッと叩きまくるものですが、ベイリーのソロなんて 5 枚のリーダー・アルバムで聴くことはできません。それ以外にもサイドメンで参加したレコードでも・・・ないです。何という徹底的に奥ゆかしい人でしょうか？ あやかりたいものです。



『ONE FOOT IN THE GUTTER』(EPIC BA-17008)／DAVE BAILEY

DAVE BAILEY(ds), JUNIOR COOK(ts),

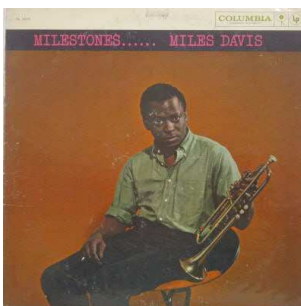
CLARK TERRY(tp), CURTIS FULLER(tb),

HORACE PARLAN(p), PECK MORRISON(b)

〔SIDE 1〕 1) ONE FOOT IN THE GUTTER 2)WELL YOU NEEDN' T

〔SIDE 2〕 1)SANDU

ではそのデイブ・ベイリーをどこで知ったかというと、やはり 1979 年の KJFC 例会。最近はお見えにならないコレクターで初代会長の H.S.氏が例会でこのレコードを掛けたからでした。ビールとウイスキーの酔いの中で素晴らしい演奏に聴こえて、思わずレコードを貸してください、と頼んだところ、どこの馬の骨ともしれない私に気安く貴重なオリジナル盤を貸してくれたのでした。



『MILESTONES』(COLOMBIA)／MILES DAVIS

MILES DAVIS(tp), JOHN COLTRANE(ts), JULIAN

“CANNONBALL” ADDERLY(as), RED GARLAND(p),

PAUL CHAMBERS(b), “PHILLY” JOE JONES(ds)

〔SIDE 1〕 1)Dr. JEKYL 2)SID' S AHEAD 3)

〔SIDE 2〕 1)MILESTONES 2)BILLY BOY

3)STRAIGHT NO CHASER

私は、何度でも言いますがマイルス・デイビスが一番好きだったピアニストはガーランドであったと確信犯です。その証拠に自分名義のリーダー作で、自らが演奏しないでピア

ニストに丸まる 1 曲のトリオ演奏を許したのは、このレコードだけでしょう。あのビル・エバンスやハービー・ハンコックでさえ許されなかった歴史的事実です。様々な事情や裏話が取り沙汰されていますが、レコードは永遠に残ります。この瞬間的な“時期”には、このビリー・ボーイはマイルスの好みでした。いい趣味していたねえデイビス君。



『WE PAID OUR DUES!』(EPIC)／CHARLIE ROUSE & SELDON POWELL

CHARLIE ROUSE(ts), GILDO MAHONES(p), REGGIE WAORKMAN(b), ARTHUR TAYLOR(ds) SIDE1 2) SIDE2 1)3)

SELDON POWELL(ts), LLOYD MAYERS(p), PEAK MORRISON(b), DENZIL BEST(ds) SIDE1 1)3) SIDE2 2)

[SIDE 1] 1) **TWO FOR ONE** 2)WHEN SUNNY GETS BLUE 3) **FOR LESTER**

[SIDE 2] 1)QUARTER MOON 2)BOWL OF SOUL 3)I SHOULD CARE

持つべきものは良き友です。このレコードは小・中学校時分からの友人が、「我蘭堂君の好みだろう」と言って約 25 年ほど前にカセット・テープを送ってくれたのです。チャーリー・ラウズのテナーも渋かったですが、セルダン・パウエルを初めて知りました。LP レコードなり CD なりが欲しかったのですが、いずれも廃盤。中古レコード屋を探しに探しました。お茶の水のユニオンでオリジナル盤が 2 万円で飾ってあって、金策に駆け回っていたわずかの間に売れてしまった時は、正真正銘に地団駄を踏みました。

20 年近く探し回って、半分あきらめかけていた時に高田馬場の某店で、国内盤が無造作に 2,000 円以下で売っていたのを見つけた時は天にも登る思いでした。「国内盤でもその値段で買ったなんてドロボーだ」と北海道支部局長に冷やかされましたが、最近は中古屋周りをするモチベーションが下がっております。

本日は、お付き合いいただきまして誠にありがとうございました。